



©Yoshinori Tsuru

～アンセム・プロジェクトに寄せて～

国ごとに独自の歌がある。当たり前のようなが、これはすごいことだと思う。長く歌い継がれていく中で、歌は熟成し、さまざまな感情や歴史をも内包していく。そしていつしか、愛国心と結びついていく。ずっとその国に住んでいる人から、その国を離れる道を選んだ、選ばざるを得なかった人まで、その想いはさまざまだろうが、それでも、ある種の郷愁、ノスタルジーは沸き上がってくる—それが「国の歌」だ。

平和な国もあれば、不幸にして歴史に翻弄された国もある。歴史的な背景や、国同士の関係性を考えてしまうと、正常なコミュニケーションが難しくなる場面もあるかも知れない。しかし、それを超えられるのが音楽だと信じている。とても「一口」には語ることのできない「国の歌」。

「国の歌」に向き合うことは、その国に向き合うことにもなる。国の数だけ、また文化もあるのだ。

自分でも行先がハッキリとは見えていないこのプロジェクト。かなり壮大なことになるだろうが、自分自身の世界が広がることだけは確かだと思う。

世界は広い、世界は狭い、どちらも真理だろう。今、万国旗のように音楽を紡いでいきたい。

山田和樹

山田 和樹(指揮) Kazuki Yamada, Conductor

2009年第51回ザンソン国際指揮者コンクールで優勝。ほどなくBBC交響楽団を指揮してヨーロッパ・デビュー。同年、ミシェル・ブラッソンの代役でバリ管弦楽団を指揮して以来、破竹の勢いで活躍の場を広げている。

2016/2017シーズンから、モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団芸術監督兼音楽監督に就任。スイス・ロマン管弦楽団首席客演指揮者、日本フィルハーモニー交響楽団正指揮者、東京混声合唱団音楽監督兼理事長、横浜シフォニエック音楽監督などを務めている。2016年には、実行委員会代表を務めた「柴田南雄生誕100年・没後20年記念演奏会」が平成28年度文化庁芸術祭大賞、2017年には「山田和樹マラー・ツィクルス」などの成果に対して、第67回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。

これまでに、ドレスデン国立歌劇場管、バリ管、フィルハーモニア管、ベルリン放送響、バーミンガム市響、サンクトペテルブルグ・フィル、チェコ・フィル、ストラスブール・フィル、エーテリ響、ユタ交響楽団など各地の主要オーケストラでの客演を重ねている。

東京藝術大学指揮科で小林研一郎・松尾葉子の両氏に師事。メディアへの出演も多く、音楽を広く深く知ってもらう姿勢は多くの共感を集めている。ベルリン在住。

公式twitter: @yamakazu_takt



音楽で描く世界地図

アメリカ合衆国国歌「星条旗」

(キー 作詞・作曲者不詳・名田綾子 編曲)

峠の我が家

(岩谷時子 訳詞・D.ケー 作曲・若林千春 編曲)

アメリカ大陸の大自然がノスタルジックな旋律とともに歌われる♪フランクリン・ローズベルトも愛した一曲で、カンザス州の州歌になっている。(徳永)

アルゼンチン共和国国歌「アルゼンチン行進曲」

(プラネス 作詞・バレラ 作曲・首藤健太郎 編曲)

天使の死(ビアソラ 作曲)

クラシックもジャズも飲み込んだピアソラのタンゴ。バンドネオン奏者としても活躍した彼の、激しいリズムとセンチメンタルな旋律は心を揺さぶる。(松崎)

イタリア共和国国歌「マメーリの賛歌」

(マメーリ 作詞・ノヴァーロ 作曲・名田綾子 編曲)

ゆけ、わが思いよ、黄金の翼に乗って(ヴェルディ 作曲)

ああ失われし祖国よ、神のことばで我々に勇気を！バビロン捕囚の者達が祖国への想いを歌う。イタリア第二の国歌としても有名。(松崎)

コモロ連合国歌「偉大な島の連合」

(アブデルマン 作詞・アブダッラー 作曲・森田花央里 編曲)

ライオンは寝ている(S.リンドバ 作曲)

原曲は1939年のアフリカンポップス「Mbube」(ズールー語で「ライオン」)。1961年トークンズによるカヴァーが全米シングルチャート1位獲得したことで世界的人気に火がついた。(徳永)

ヤマカズ&東混 夢の旅へ ～愛唱歌集より～

気球にのってどこまでも(東 龍男 作詞・平吉毅州 作曲)

昭和49年NHK全国音楽コンクール小学校の部課題曲として生まれた、明るく希望に満ちた曲。サビの部分では手拍子を交えて歌われる。ぜひ一緒に。(徳永)

瑠璃色の地球(松本 隆 作詞・平井夏美 作曲・加藤昌則 編曲)

地球は何色だと思いますか？ 一瞬瑠璃色、と歌ったのは80年代の松田聖子さん。合唱版となり様々な世代に愛される歌に生まれ変わった。(松崎)

地球へのピクニック(谷川俊太郎 作詞・三善 晃 作曲)

作曲者曰く「そこに地球が浮いている。何ものにも支えられず、しかしすべての生命を支えながら。」宇宙からの視点で湧き上がる、愛と地球への賛歌。(徳永)

虹の彼方に(E. Y. ハーバーク 作詞・H. アーレン 作曲・三善 晃 編曲)

「オズの魔法使い」ドロシーの歌。頭脳のないカカシ、心のないブリキ人形、勇気のないライオンと「カンザスの家に帰る」願いを叶えるために黄色い道に行く。(松崎)

風になりたい(宮沢和史 作詞作曲・若林千春 編曲)

日本のサンバを作りたい、というTHE BOOMの宮沢和史さんのひらめきにより生まれた曲。都会の中でも風になれる瞬間があるというメッセージ。(松崎)

曲目解説：東京混声合唱団コンサートマスター 徳永祐一／松崎ささら

ロシア連邦国歌

(ミハルコフ 作詞・アレクサンドロフ 作曲・首藤健太郎 編曲)

カリンカ(ロシア民謡・田中信昭 編曲)

カリンカとは「カーリーナ」(赤い実を結ぶ低木)の愛称。白く小さな花が咲き、ロシアでは花嫁の象徴として愛されている。歌は求愛の意味が含まれており、婚礼の場面では踊りも加わり賑やかに歌われる。(徳永)

インドネシア共和国国歌

(スプラットマン 作詞作曲・山下祐加 編曲)

ガムラン(シェーフアー 作曲)

打楽器合奏を人の声で表す着想から生まれた曲。ペンタニックと緩急を付けたポリリズムで絡み合うアンサンブルの妙に惹きつけられる一曲。(徳永)

オーストラリア連邦国歌「進めうわしのオーストラリア」

(マコーミック 作詞作曲・森田花央里 編曲)

コンダリラ(滝の精)(リック 作曲)

シドニーから約1000km北に行くくとコンダリラ国立公園がある。自然豊かに宿る音の世界を声だけで創り上げる。(松崎)

涙をこえて(かぜ耕土 作詞・中村八大 作曲・相澤直人 編曲)

NHK音楽バラエティー「ステージ101」(1970-1974)のオリジナルソング第1号。前奏も特徴的で魅力の一つ。番組最終回ではこの曲を出演メンバー(ヤング101)が歌い踊り、感動的に締めくくられた。(徳永)

上を向いて歩こう(永 六輔 作詞・中村八大 作曲・相澤直人 編曲)

安保闘争の敗北を嘆くと、中村メイコさんの失恋を悲しむことなど、誕生秘話は諸説あれど、このメロディとこの歌詞が何度も人々を勇気づけてきたことは間違いない。(松崎)

心の瞳(荒木とよひき 作詞・三木たかし 作曲・加藤昌則 編曲)

坂本九さんが最後に残した曲。1985年8月12日に公開録音されたラジオ番組を聞いた中学教諭により合唱曲に編曲され、多くの人々に親しまれるようになった。合唱の定番曲として、世代を超え愛され続くであろう一曲。(徳永)

翼をください(山上路夫 作詞・村井邦彦 作曲・若林千春 編曲)

1970年、「赤い鳥」に歌われ大ヒット。詞は、水戸黄門の「ああ人生に涙あり」や小柳ルミ子の「瀬戸の花嫁」なども書いた山上路夫。編曲は、「峠の我が家」「風になりたい」と同様、東混と縁のある若林千春。(松崎)